



大きな岩塊が倒壊してできた胎内くぐり岩。  
日山南方の山腹にある。

田県にも見られることがわかっている。この岩石ができたのは、地質時代でいうと中生代白亜紀の終わりごろ、大体6,000万年から1億年前ごろとされている。その後地殻の運動によって山は上昇をつづけ、一方では侵蝕作用

をうけるために、深いところにあった花崗岩は、しだいに地表に顔を出すようになるのである。このような運動によって、まえにのべたように岩石の中に無数のさけ目ができるというわけである。

ところで、もう1つ分水界の山やまに見られる共通した特徴がある。登山した人ならばだれでも気がつくのであるが、山の中腹から頂上部にかけて、たくさんの花崗岩の白い岩



〔日山頂上付近の大岩塊〕

重量数10トンはあると思われる花こう岩の岩塊、節理面が見事で、ほぼ立方体に近い形をしめしている。